

じぞうとうげ  
**地蔵峠**

武田信玄三河進攻の峠

中央構造線の断層鞍部に位置する峠。標高1314m。大鹿村の青木川と飯田市の上村川の分水嶺となっており、古くから秋葉街道の中の難所の峠の一つだった。古くは「遠山峠」とも呼んだ。名前の由来となった地蔵は、元々は峠の南にある「堂屋敷」地籍に安置されていた、4基のうちの2基を大正時代頃に相次いで、この峠に移転したものであるという。



旧峠は車道西側にある地蔵堂前の鞍部を越えていた



現峠は車道を通した際に掘り切られた新しい峠



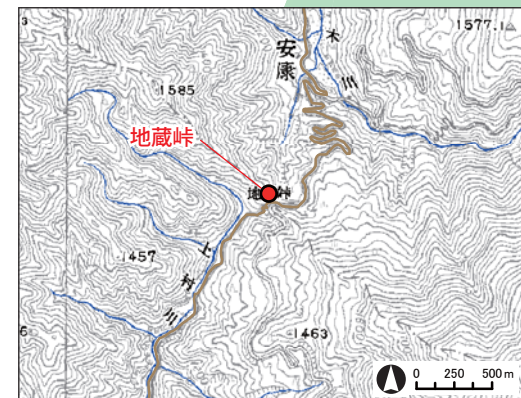
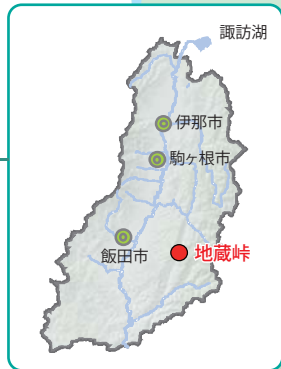
地蔵峠の裏には、鬼面山登山道が続く



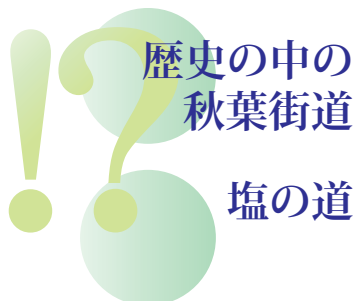
information

□ アクセス  
松川ICから35km  
車→1時間10分

□ 所在地  
大鹿村、飯田市



(国土地理院の数値地図50000(地図画像)を使用)



南北朝時代、南朝の皇子宗良親王(むねよししんのう/むねながしんのう)が地蔵峠を越えて、南の駿河地方に往来していたといわれる。また、戦国時代、武田信玄の軍勢が峠越えをして駿河方面に通り抜けたという軍道でもあった。

秋葉街道は、伊那市高遠から分杭峠、大鹿村、地蔵峠を越えて上村川や遠山川に沿って遠山谷を縦走している。太平洋沿岸産の食塩が、信州に入る重要な「塩の道」でもあった。